

親しい友人の間で、ウケを狙って悪ふざけをするという行動は、多かれ少なかれ誰もがやってきたことかもしれません。

友人とのコミュニケーションのつもりで、FacebookやTwitterにその様子を投稿したらどうなるでしょう。ネット上の書き込みはあっという間に世間一般に広まることもあるのです。

事例

大川さんは大手コンビニエンスストアGチェーンの店舗でバイトをしています。ある日、深夜番のバイトだった大川さんは「自分がアイスクリームの冷凍ケースに入った写真を送ったらみんなにウケるだろうな」と思いつきました。

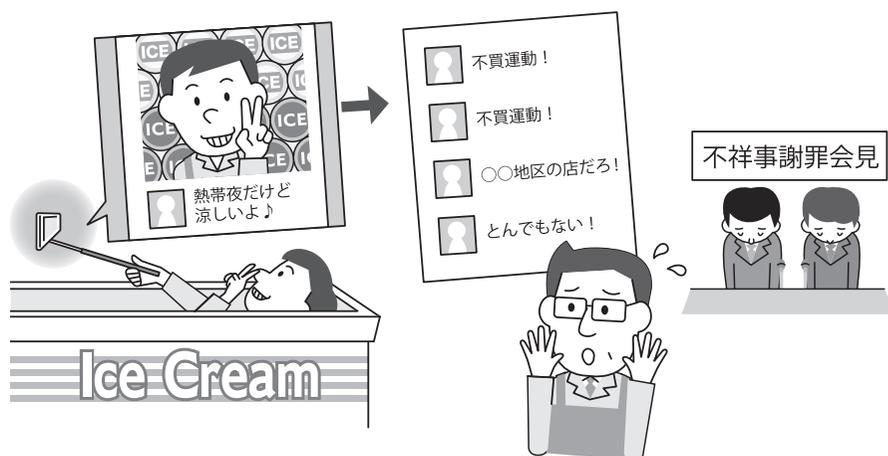
さっそく大川さんはアイスクリームの冷凍ケースに入り、その様子を自撮りして、「熱帯夜だけど涼しいよ♪」とメッセージを付けてTwitterに投稿しました。すぐに仲間から「面白ええ!」「超ウケる!」などの反応があり、大川さんも大満足です。

朝になってバイトも終わり、帰宅途中の電車の中で大川さんがスマホを見てみると、大勢の知らない人から非難のメッセージが大量に届いていました。

大川さんは慌ててブログやFacebookを見てみましたが、そちらも同じような状態でした。大川さんはTwitterではニックネームを使っていたのですが、なぜか実名までバレてしまっていました。

その後、ネットユーザーの非難はコンビニエンスストアGチェーン本部にも殺到し、最終的にはGチェーン本部の役員が謝罪会見を開き、店舗はフランチャイズ契約の解除を通告されました。

大川さん自身は学校を退学になり、さらに閉店となった店舗のオーナーから損害賠償請求を起こされてしまいました。



用語

公開範囲

SNSにおいて自分の投稿を「誰まで見せるか」というプライバシーの制限を管理する範囲。

Let's Try

ためしてみよう【25】

事例の大川さんは、悪ふざけのつもりでしたが大変な事態を引き起こしてしまいました。大川さんは、ソーシャルメディアをどのように利用すべきだったのでしょうか。次の文章を読んで正しいものには○、正しくないものには×を付けましょう。

- ① Twitterでは、普段ごく親しい友人としか投稿のやり取りをしていないように錯覚しがちだが、本当は世界中のユーザーから見られるものであることを常に心がけておくべきだった。
- ② Twitterをニックネームで利用していても、Twitter社に問い合わせれば本名を教えてくれるので、本名は必ずバレることを自覚しておくべきだった。
- ③ 大川さんは炎上に気づいたら、すぐに該当のツイートを削除し、新しいツイートで謝罪するべきだった。



ネットは公共の場であることを常に忘れずに

事例のように学生アルバイトがふざけて不適切な行動をソーシャルメディアに投稿して非難が殺到する「炎上」騒ぎがいくつも起きています。このような現象を「バイトテロ」と呼び、また、こういった投稿にTwitterが使われることが多いことから、投稿者のことを「バカッター」と呼んだりします。大川さんの行動は許されるものではありませんが、悪ふざけで行ったことに対する代償としては、非常に大きいものになってしまいました。しかし、大川さん以上に損害を受けたのは、コンビニエンスストアチェーンの本部や店舗のオーナーです。本部は世間からの信用を失い、オーナーは経営していた店舗を閉鎖するという事態に追い込まれました。オーナーとしては損害賠償請求もやむを得ないところでしょう。

このように、ほんの出来心でやったことが取り返しのつかないことになってしまうこともあるのです。

●その他のバイトテロの事例

そのほかにも次のような事例があります。

- ・そば屋の学生アルバイトが洗浄機に入り込んだ写真を投稿、店にクレーム電話が相次ぎ、閉店。その後破産申請。学生は大学側から停学処分とされる。
- ・看護専門学校生が学校に併設している病院の患者の臓器を撮影し投稿。学校側が謝罪し、学生は退学。

●行き過ぎた発言はしない

不適切な発言を見たユーザー側が、過激な言葉で攻撃したり、発言とは関係のない事柄まで持ちだして誹謗中傷したりすることもあります。攻撃する相手が目の前にいないうえ、匿名性が保たれることや集団心理なども作用し、発言がどんどんエスカレートしていく傾向にあります。それが炎上を引き起こす原因にもなり、大きな問題へと発展していきます。匿名だから、みんながやっているからといって、人を攻撃してよい理由にはなりません。他人を不愉快にしたり良識を欠いたりした投稿は避けるべきです。ネット上だから・・・と気持ちを緩めず、常に現実社会と同じような心構えで情報を発信していきましょう。

More 匿名やニックネームでも要注意!

ブログやTwitterは匿名やニックネームで利用することができ、Facebookは公開範囲を制御できます。

「実名じゃないから、多少面白いこと(刺激的なこと・毒があること)を言っても大丈夫だろう」などと思っていませんか。

匿名の投稿や公開範囲を限定した投稿でも、転載されたり、投稿内容を不愉快と思うユーザーに、ブログやTwitterなどの過去情報を洗いざらい調べ上げられ、実名や個人情報さらされたりする事件が多発しています。また、個人情報がさらされなくても、ブログやTwitterなどに非難のコメントが殺到し、ブログやアカウントの閉鎖などに追い込まれるケースも多くあります。

More 投稿を削除すれば安心?

あなたがもし不適切な投稿をした場合、速やかに削除しましょう。

そして、不適切な発言をした旨を説明し、誰かが見て不快な思いをした可能性があるのであれば、きちんと謝罪することが必要です。しかし、削除さえすれば安心、というわけにはいきません。気が付いてから投稿を削除しても、投稿のコピーやキャッシュ、画面キャプチャなどが出回ってしまうこともあります。なによりも、投稿するときに気を付けることが大切です。

More 個人情報や誹謗中傷が書き込まれたら

電子掲示板やWebサイトに自分の個人情報や誹謗中傷などが書き込まれた場合、プロバイダに対して、削除要請をすることができます。また、プロバイダ責任制限法により、当該記事の発信者の情報を開示請求することも可能です。